

整理 No.	10	分類	コンクリートがれき・津波堆積土砂	
会 社 名	岡三リビング株式会社			
担 当 者	青田陽介（東北支店ジオテクノ課）			
連 絡 先	TEL	022-263-2446	FAX	022-263-8998
	E-mail	aota@okasanlivic.co.jp		
技術の名称	多数アンカー式補強土壁工法			
概 要 (150 字程度)	発生土の有効利用を目的に旧建設省が考案し、以後官民の共同研究によって培われた高い信頼性・優れた経済性を持つ補強土壁工法です。支圧抵抗によって盛土を補強し直壁を構築する工法で、盛土材の適用範囲が広いのが特長です。			
技術登録等	NETIS : KT-980087-V			
技術の概要	◆基本的な考え方 ・盛土造成工事、道路拡幅工事、構造物周辺の土留め、水辺の擁壁等に用いる補強土壁工法です。 ・盛土前面にコンクリートの直壁を設け、この壁面に作用する土圧力と盛土内の安定領域に設置したアンカープレートの引き抜き抵抗力和を釣り合わせ、盛土の安定を図る工法です。 ◆適用可能な盛土材料 ・路体盛土材として使用できるものであれば、基本的には使用可能です。（但し塩分濃度が高い場合には、別途対策が必要） ・摩擦系の補強土壁と異なり、支圧抵抗によって盛土を安定させる工法であるため盛土材の適用範囲が広く、岩ズリ・がれき・碎石や粘土混じり土砂などの現地発生土等を有効利用できます。 ◆高い信頼性・優れた耐震性 ・補強土壁工法は、通常のコンクリート擁壁より安価で、高い壁高の擁壁を構築することが可能です。（最高実績 H=25.0m） ・土中に無数の補強材を配置することによって盛土の安定をはかる工法であるため、通常のコンクリート擁壁に比べて耐震性能に優れることが知られています。巨大地震、例えば『兵庫県南部地震』（M7.3・震度 7）や『新潟県中越地震』（M6.8・震度 7）でも、崩壊は 0 件という調査結果が出ており、耐震性能に優れていることが実証されています。『東北地方太平洋沖地震』（M9.0・震度 7）においても、「崩壊」・「道路機能の喪失」は 0 件でした。			
次頁 あり・なし				

次頁

あり・なし

技術の概要
(つづき)

◆利用先・用途(実績等)

- ・主な用途・・・盛土道路、盛土造成、橋台背面の取付道路、ボックスカルバート脇の土留め等
- ・主な施主・・・国土交通省、防衛省、農林水産省、NEXCO(旧 JH)、都道府県、市町村、民間企業他
- ・施工実績・・・全国で約 6000 件